

AI時代の  
アプローチAIの使い方の  
幅を広げて  
英語力を鍛えるAIが描く  
ドタバタお仕事英語劇！

🔍 今回のテーマ 『空飛ぶ車でイベントやれて!?』 ②

## AIが描く英語ストーリー&amp;挿絵で学ぶ新感覚レッスンの2回目

記事：藤森智世（ライター） 協力：コスモピアAI研究室

生成AIは単なるテキスト生成だけでなく、感情や文脈を理解する能力も進化しています！今回は「従来よりも感情理解能力が向上したモデル」と「コンテキストを理解する画像生成モデル」を活用して、感情豊かな英語の物語と、そのストーリーを視覚的に補完する挿絵をご紹介します。抽象的な感情表現や文脈依存の英語フレーズを、AIが生み出すストーリーと絵と一緒に学ぶことで、教科書だけでは得られない「生きた英語」を体験できます。さらに、あなた自身が第3の登場人物となり、AI同士の会話に参加して英語表現を練習したり、挿絵の描写を英語で指示したりと、楽しみながら英語力を鍛えてみましょう！



## 生成AIの技術的な紹介

## AIによる共同物語作り\*

**ChatGPT o4-mini-high**に「チャッピー」という名前を、**Claude Sonnet 4**に「九郎堂」という名前を割り当て、ふたつの生成AIが英会話をを行います。

会話の日本語訳と挿絵は**GPT-4o**が担当しました。

**ステップ1**  
人間が物語を  
リクエストする



**ステップ3**  
ChatGPT o4-mini-high  
が会話を開始する



**ステップ5**  
Claude Sonnet 4  
が応答する



**ステップ7**  
GPT-4o が  
挿絵を生成する



**ステップ2**  
GPT-4.5 が物語の  
アウトラインを具体化する



**ステップ4**  
人間が AI 同士を  
仲介する



**ステップ6**  
ステップ3-5  
を繰り返す



今回も筆者が物語のアイデアを考え、**GPT-4.5**に物語のアウトラインを具体化してもらいました。

\*本原稿は2025年3月初旬時点の情報に基づいている。最新の状況と異なる場合があるので注意（例：2025年4月17日にOpenAI o3-mini モデルのUI提供が終了。ただし無料ユーザーでも、プロンプト送信前に「Think」を選択すれば、o4-mini の使用が可能）。



## GPT-4.5

OpenAIが2025年2月に発表した最新モデルです。単なるテキスト生成を超え、人間の感情を深く理解する「感情知能（EQ）」に優れます。友人と話しているような自然さで、気軽に使える相棒として注目されています。



## GPT-4o (画像生成機能)

OpenAIが2025年3月にGPT-4o 画像生成機能の大幅な強化をリリースしました。専門知識やソフトがなくても、日常会話感覚で高品質な画像が作れます。ビジネス文書からSNS投稿まで、誰もが「セミプロ級のビジュアル表現」を手軽に実現できる画期的なツールとして注目を集めています。  
(注：2025年4月11日現在、無料ユーザーは1日1枚のみ画像生成が可能)



## OpenAI o4-mini-high



## Claude Sonnet 4

OpenAI、Anthropicの「推論モデル」です。推論モデルは応答を生成する前に段階的な思考プロセスを重ねることで、論理的に考え、数学、コーディング、科学的課題などの複雑な問題を解決する能力に優れます。物語生成に向いているとは言い難いですが、今回はモデルの紹介のために活用しています。

## 登場人物の紹介と前号までのあらすじ

「空飛ぶ車」を使ったイベント企画を、という社長からの無茶ぶりに直面した、チャッピーと九郎堂。チャッピーは「空からの手紙配達」というロマンチックなアイデアを提案し、九郎堂はそれを現実にするための計画を立てる。イベント実現に向けて役所へ許可を取りに行くが、官僚的な手続きと細かすぎる規制に悪戦苦闘。しかし、九郎堂が「制御型空中配送」のような専門用語を駆使することで、無事に許可を得ることに成功する。二人の波乱に満ちたイベント準備は、さらなる壁に直面しつつも続いていく。

(前号をご覧くださいの方は、p.103を参照してください)



### シーン3

## 若手社員の斬新すぎるアイデアに困惑

許可申請を突破したふたりに、ほっとひと息つく間はなかった。イベントの技術的な実現性を話し合うミーティングが始まるや否や、若手社員が嬉々として最先端技術のアイデアを猛烈な勢いで語りだしたのだ。

若手社員「あの！ 最近公開されたベクタリング補正型滑空制御、あれ使えば風読み精度が桁違いなんで、今回はもうこれで行けると思ってます！ で、コンセプト資料見てすぐ浮かんだんですけど、封筒にインダクティブファイバー埋め込めば、開封トリガーでセントスブライサー連動できるんですよ！ 香り、飛ばせます！」

チャッピーと九郎堂は笑顔を保ちながらも、内心でパニックに陥り始めていた。



**Kurodo:** Hold on there, genius. Can you translate that into... human language? Because right now, you sound like you're speaking Martian.



**Chappy:** Oh wow, “scent-launching envelopes” and “vector-glide precision”? That's... a lot. Can we do a version that doesn't sound like a sci-fi thesis?



**Kurodo:** Exactly! Look kid, we just need letters to drop from the sky safely. All this fancy tech talk is giving me a headache. Simple solutions, remember?



**Chappy:** Unless this “scent-launching vector-glide tech” can fold paper and attach a ribbon, we're out. Let's stick to parachutes and gravity, okay?

**The young engineer looked serious and replied firmly.**



**Young Engineer:** No, that's not safe. The winds are unpredictable. My control tech is a necessary fail-safe to prevent accidents.



**Kurodo:** Wait, hold on. You're saying the winds are actually dangerous without your tech? Okay, safety first. But can you explain it without the technical jargon?



**Chappy:** We're not launching probes to Mars—we're dropping dreams. Soft, silly, sweet little dreams. And they need to *float*, not *explode*.



**Young Engineer:** “A hug from the sky...”

**The young engineer mulled over the concept, then looked at Chappy.**



**Kurodo:** Sweet, simple, unforgettable — that's our motto now. Can you work with “basic parachute drops” instead of... whatever that was?



**Chappy:** (grinning with a thumbs up) Think lo-fi magic, not sci-fi chaos. Retro charm is the real innovation here. Can we count on you?

**A spark of understanding lit up in the young engineer's eyes.**



**Young Engineer:** Got it. So we create lo-fi magic, and my tech is the invisible system that makes it truly safe.



**Kurodo:** Look, I get it. Your tech keeps us safe while we keep it simple. Can you make the safety invisible to our audience?



**Chappy:** Right. Make sure no one ever feels the tech—just the wonder. If we pull that off, it's real magic.



**Kurodo:** Exactly! Magic that won't get us arrested or sued. We barely



survived the permit process. Let's not tempt fate with experimental technology, okay?



**Young Engineer:** You can count on me. My tech will be the invisible guardian that makes sure this analog magic is safe. Let's create "heartwarming magic!"

**九郎堂:** ちょっと待ってくれ、天才くん。それ、人間の言葉に訳せるか？ 今のままだと、火星語にしか聞こえないんだが。

**チャッピー:** ちょっと待って、「香り付き起動封筒」に「ベクター滑空精度」って、なにそれ。ねえ、SFの学术论文じゃないバージョンでお願いできる？

**九郎堂:** そう、それだよ！ いいか、私たちが求めているのは封筒が安全に空から落ちてくることだけ。そんなハイテク用語、聞いているだけで頭が痛くなる。シンプルにいこう、シンプルに。

**チャッピー:** その「香り付きベクター滑空システム」が紙を折ってリボンを結んでくれるっていうなら別だけど、そうじゃないなら却下ね。パラシュートと重力でいきましょ、ね？

若手エンジニアは真顔で言い切った。

**若手社員:** いえ、それでは安全が確保できません。風の流れは予測不能です。私の制御技術は、事故を防ぐための必要不可欠なセーフティ機構なんです。

**九郎堂:** ちょっと待って、それってつまり……その技術がないと風が危ないってことか？ うん、まあ、安全第一ってのはわかる。でもさ、お願いだから専門用語抜きで説明してくれないか。

**チャッピー:** 私たちが飛ばしてるのは、火星探査機じゃないの。届けたいのは、ふわっとした、ちょっとバカバカしくて、でも優しい夢たち。だからね、浮かべせるの。爆発させるんじゃないくて。

**若手社員:** 「空からのハグ……」

そのコンセプトを噛みしめるように、若手社員はしばし沈黙し、やがてチャッピーを見つめた。

**九郎堂:** 甘くて、シンプルで、忘れられない——それが俺たちの新しいモットーだ。で、さっきの謎技術じゃなくて、「基本のパラシュート投下」でやれそうか？

**チャッピー:** (サムズアップしてニヤリと笑い) SF的オタクじゃなくて、ローファイな魔法って感じで。レトロな魅力こそが、今いちばん新しいのよ。信じてるからね？

次の瞬間、若手社員の目にふっと灯るものがあった。

**若手社員:** わかりました。ローファイの魔法を演出する。そして、僕の技術はその魔法を陰で支える“見えない安全装置”になるんですね。

**九郎堂:** わかったよ。君の技術が、安全を守ってくれてるんだな。で、俺たちはそれを、シンプルに見せる役目ってわけか。でさ、その“安全”ってやつ、見る人には気づかれないようにできるか？

**チャッピー:** よし。それなら、誰にも“技術”なんて感じさせないで。“感動”だけが届くようにして。——それができたら、本物の魔法よ。

**九郎堂:** その通りだ！ 逮捕も訴訟もナシでいこう。あの許可申請、死ぬ思いで通したんだ。だから頼む、もう運命を試すような実験的な技術は勘弁してくれ！

**若手社員:** 任せてください。僕の目に見えない守護技術で、このアナログな魔法をちゃんと安全にします。“心温まる魔法”を一緒に作りましょう！

## シーン4

## それでも仕事は、またやってくる

イベント当日、空飛ぶ車は予想以上に注目を集め、『空からの手紙配達』は街の人々を笑顔と感動で包んでいた。予期せぬトラブルや突発的な課題、そして若いエンジニアに散々振り回されたチャッピーと九郎堂だったが、無事成功を収め、やっと肩の荷を下ろした瞬間が訪れる。

盛り上がる人々と空飛ぶ車を眺めながら、二人はぼんやりと立ち尽くしていた。



**Kurodo:** Chappy... I never thought we'd actually pull this off. Look at those faces... pure joy.



**Chappy:** I told you we'd make today unforgettable! Did you see that kid jumping to catch a letter?



**Kurodo:** Ha! Yeah, my heart nearly stopped worrying something would go wrong. But now... every gray hair feels worth it.



**Chappy:** Exactly! Chaos, creativity, and just a pinch of madness—my perfect recipe!



**Kurodo:** Your recipe almost took years off my life... but fine, I'll admit, it worked.

The two of them smiled with satisfaction, savoring the afterglow of their success. Just then, Kurodo's phone began to vibrate...



**Kurodo:** Ugh, it's the boss. Compliments would be nice, but...



**Chappy:** Don't tell me he's cooked up another "genius idea" already?



**Kurodo:** Afraid so. (reads the screen, groans) A "submersible train"... seriously?



**Chappy:** You're joking, right? Please, tell me this is a joke.



**Kurodo:** Wish I were. Looks like we'll be literally diving deep this time.



**Chappy:** (laughs weakly) Well, fantastic. Just when I thought we'd reached peak insanity.



**Kurodo:** Welcome to our endless loop of "brilliant madness."

The two of them shared a wry smile, quietly expressing their willingness to face the next 'impossible project.'

**九郎堂:** チャッピー……まさか本当にやり切れるとはな。見るよ、あの顔……あんなに嬉しそうに。

**チャッピー:** 言ったでしょ、忘れられない日にするって! あの子、手紙キャッチしようとしてジャンプしての見た?

**九郎堂:** ああ、なにかトラブルが発生するんじゃないかと心臓止まるかと思ったぞ。でも……今こうして見ると、白髪の本一本が報われた気がするな。

**チャッピー:** でしょ? 混沌と創造性、そしてほんの少しの狂気。それが私の最高のレシピ!

**九郎堂:** 君のレシピは命が縮むんだよ……でもまあ、認める。効いたよ。

ふたりは満足げに微笑み、成功の余韻をかみしめる。そのとき、九郎堂のスマホが震える。

**九郎堂:** うわ、ボスからだ。お褒めの言葉なら嬉しいが……。

**チャッピー:** まさか、また“天才的なアイデア”でも思いついたってやつじゃないでしょうね。

**九郎堂:** そのまさかだ。(画面を見てうめきながら)“潜水型列車”、だと……。

**チャッピー:** 冗談でしょ? ねえ、冗談だって言って。

**九郎堂:** 残念ながらマジらしい。今度は“深く潜る”らしいぞ。

**チャッピー:** (力なく笑って) ハハッ、最高。やっと狂気のピークに達したと思ったのに。

**九郎堂:** ようこそ、終わりなき「天才的狂気」のループへ。

ふたりは苦笑いしながら、次なる「ありえないプロジェクト」に向かう決意を、静かに共有するのだった。



←前号6月号のp.108～113の記事は、左のQRコードのコスモピアAI研究室からダウンロードをして聞くことができます。



←本号のp.100～103の記事は、左のQRコードのコスモピアAI研究室からダウンロードをして聞くことができます。

→前号6月号のp.110～113のChappyとKurodoの自己紹介と会話のAI音声は、右のQRコードのコスモピアAI研究室からダウンロードをして聞くことができます。



→ Gemini の会話生成機能については、右のQRコードのコスモピアAI研究室からダウンロードして見るすることができます。

